

２０２１年６月１日

衆議院議員

環境副大臣　笹川 博義　様

国立公園のバリアフリー整備推進のお願い

認定特定非営利活動法人DPI日本会議

議長　平野みどり

　平素より差別のない社会づくりにご尽力いただきありがとうございます。

さて、２０１６年から障害者差別解消法が施行され、2020年にはバリアフリー法が改正され、**障害**の有無によって分け隔てられない共生社会の実現に向け、大きく前進しております。

しかしながら、法施行後も地方部でのバリアフリー整備が遅れており、国立公園もその一つです。アメリカでは国立公園を６つの分類に分けて（ROS）、バリアフリー化をするところとしないところ、どのような整備をするかということを明確に定めて整備を進めています。このROSという仕組みは、自然保護とバリアフリーを対立させることなく、誰からも理解を得られる整備の仕組みであり、大変有効だと考えています。

我が国の国立公園もROSを参考に、自然保護とバリアフリー化の度合いの分類を定めて整備を進めていただきたく、下記、お願い申し上げます。

1. 米国ROSを参考にしたバリアフリー整備ガイドラインを策定してください

* アメリカでは「ROS(Recreation. OPPortunity Spectrum)」と呼ばれる分類により、自然保護のレベルを6段階に分けて整備を行っています。①は自然に全く手を入れない状態で、⑥に近づくほど人工的なものが入ってくる。主に、④レベルの地域からバリアフリー化が進められている。
* 日本もこのような分類を設けて、どのレベルから、どういった内容のバリアフリー整備を行うかガイドラインを策定し、計画的に整備に取り組んでください。

【Recreation. OPPortunity Spectrum（ROS）】

* 1. Primitive: 歴史・文化地域
     + 全ての道路や登山道から3マイル以上離れた場所。電動機器の使用は禁止。
  2. Semi-Primitive　Non-motorized: 原生地域
     + 全ての道路や登山道から1/2マイル離れた場所。通常、電動機器の使用は禁止。気づかれることはあるが気づかれない程度の整備。
  3. Semi-Primitive Motorized: 特異な自然地域
     + 面積は一般的に2,500～5,000エーカーでレベル3以上の道路から1/2マイル。電動機器の使用が可能。典型的なアクティビティには、OHVツアー、スノーモービル、ハイキング、乗馬、クロスカントリースキー、狩猟、釣りなどがある。
  4. Roaded Natural: 自然環境地域
     + 開かれた道路や登山道から1/2マイル。電動機器の使用や整備は自然環境と調和している。社会的な接触は中～高頻度。
  5. Rural: 一般的アウトドア地域
     + 自然環境は大幅に変更されている。小さな照明付きの構造物を含む。典型的はアクティビティ又は施設はキャンプ、釣り、情報センター、コンビニエンスストア等がある。
  6. Urban: 利用密度の高いレクリエーション地域
     + 都市。森の中に「都市」に分類される地域はない。

参考：<https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjfs1953/82/3/82_3_219/_pdf>

<https://www.fs.usda.gov/Internet/FSE_DOCUMENTS/stelprdb5412128.pdf>

<https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjfs1953/85/1/85_1_55/_pdf>

<https://www.fs.usda.gov/Internet/FSE_DOCUMENTS/fsm9_027593.pdf>

1. ハード面での整備について
2. **車いす等の障害者が利用できるように整備してください。**
3. **ビジターセンター、博物館、飲食店、土産屋等**

* ビジターセンター、博物館、飲食店、販売店等の国立公園内の施設は、車いす等で利用できるようにバリアフリー整備を実施してください。
* スロープ通路幅、バリアフリートイレ、身障者用駐車スペースの基準は、バリアフリー法にもとづく建築設計標準等のガイドラインを参考にしてください。
* 公園内の一部の施設の整備だけにとどまることなく、一般の人が利用する施設は、すべて上記の基準を踏まえて整備を進めてください。

1. **屋外の遊歩道や展望台等**

* 遊歩道や展望台等は、一部バリアフリー化されていますが、残念ながら十分とは言えません。特に展望台は階段でしか行けないところが多く、最も眺めの良い場所を見ることが出来ません。
* ⅠのROSを参考に、公園内を複数段階で分類し、自然保護を踏まえた上で、遊歩道、展望台等のバリアフリー整備を進めてください。

**【海外の事例】**

* ナイアガラの滝は船で滝の真下まで行ける。船はバリアフリー仕様となっており、電動車いすでもそのまま乗り込むことができる。(2019年、電動車いすユーザー、男性)

※障害者権利条約の第九条では、障害者が自立して生活し、及び生活のあらゆる側面に完全に参加することを可能にすることを目的としています。一部ではなく、完全に参加できる機会、設備を整備してください。

1. **バリアフリートイレ**

* 観光関連施設内には1か所以上のバリアフリートイレを設置してください。屋外のコースに設置が難しい場合は最寄りの施設のトイレ情報を提供してください。

1. **アクティビティー**

* キャンプ、釣り、トレッキング等、体験型のアクティビティは障害の有無によって参加を断られることがないよう、環境整備とともに合理的配慮の提供を行ってください。
* 自然保護の観点からどうしても整備が難しい場合はVR等の技術を用いて疑似体験ができるような代替案の提供をしていただきたい。

**海外の事例】**

* アメリカ グランドキャニオン コロラド川下りのラフティングツアーは車いすのままでも参加できる。（2019年、手動車いす、男性）

1. **情報のユニバーサルデザイン対応を整備していただきたい。**
2. **音声案内や点字案内、誘導ブロック等**

* 現在は全ての国立公園で音声案内や点字案内、誘導ブロック等の設置が皆無です。早急に整備を進めてください。

1. **ウェブアクセシビリティー**

* 各国立公園のウェブサイトは高齢者や障害者を含む誰もが利用できるものとなるよう、ウェブコンテンツのアクセシビリティに関する日本工業規格「高齢者障害者等配慮設計指針ー情報通信における機器・ソフトウェア・及びサービスー第3部　ウェブコンテンツ(JIS X 8341-3:2016)」にもとづいたデザインにしてください。
* 私たち障害当事者にとっては、設備があるかどうかに加えて、どのような位置にどのように設置されているかといった具体的な情報が大きな安心材料になります。また、同じ設備でも障害程度によっては使える人、使えない人がいます。そのためユニバーサルデザイン対応状況はピクトグラムだけでなく写真付きで紹介してください。

1. **障害当事者参画による視察、評価、改善の仕組みを作ってください**
2. **2020東京オリパラのレガシーを全国へ**

* 2020東京オリパラでは、新国立競技場を建設する際に設計段階から障害当事者、学識経験者、設計事務所、施工会社を交えたユニバーサルデザインワークショップを複数回開催しました。障害当事者の意見を直接伝え視察と検討を重ねたことで世界最高水準のバリアフリー設備を有する施設にすることが出来ました。
* 国立公園でもこのように多様な障害当事者の意見を反映させる仕組みを実施してください。
* **まずは、どこかの国立公園のバリアフリー化に取り組み、多様な障害当事者が参加し、視察して、討議し、意見を反映させる取り組みを実施してください。**

1. **アクセスと宿泊施設の整備を進めてください**
2. **国立公園までのアクセス**

* 国立公園までの公共交通手段として路線バス、観光バス、民間タクシー等があるが、バリアフリー化されていないところが多いです。また、最寄りの鉄道駅が無人駅であったり、エレベーターのない駅の場合もあり、現地へ行くこと自体が困難です。
* 国立公園までのアクセスのバリアフリー化も推進してください。

1. **周辺の宿泊施設**

* 国立公園周辺のホテル、園内のキャンプ場等にバリアフリールームやユニバーサルデザイン対応の客室がほとんどありません。あったとしてもウェブサイトに載っていなかったり情報を探しにくい状況です。
* ユニバーサルデザイン対応の客室を増やすとともに、必要な人に届くように積極的な情報提供を行ってください。

1. ソフト面での整備について
2. **施設利用のための事前連絡**

* 釧路湿原国立公園の温根内ビジターセンター等、一部の施設では身障者用駐車スペースを利用するための事前連絡を求めている。事前連絡がなくても利用できるようにしてください。

1. **職員、ボランティアスタッフへの教育**

* 職員やボランティアスタッフの方々には社会モデルに基づいた研修をしていただきたい。研修は当事者も交えて行うことが好ましいです。